



私と日本語能力試験

张 芳
ZHANG FANG

三年前、私は研修生として日本に来ました。三年間、いろんな事があったが、私の心の中に一番残った事は三回日本語能力試験を受けた事です。

日本に来たばかりの私、やって見る気持ちで、まず三級を受けることにした。初めて広島大学に入った私、ときどきして試験場に入った。「どんな問題が出るかなあ…」と考えながら、問題用紙を配るのを待っていた。放送している注意事項など全然気づかなかった。「思ったよりずっと簡単だ」と秘かに喜んでいる所、「このパンフレットは机の上に置いてはいけません」と聞こえて、解答に打ち込んでいる私びっくりした。頭を上げて、先生は机の角に置いているパンフレットを指していた。「すみません」と私言いながら、忘れられたパンフレットを慌てて鞆に入れて、解答し続けようとする、「すみません、規則を守らないと、だめです、今回試験が受けられません」と先生は厳しそうに言った。突然の言葉で、私は必死で先生に謝ったが、先生は失格と示す黄色カードを出した。私はどうやって教室から出たのが覚えていない、只最後に先生は私の泣きそうな顔を見て、「すみません、また来年」と言われた時、悔し涙をぼろぼろこぼした。家に帰って、布団の中に包まって泣いている私は、社長の期待に答えられなくて、後ろめたい気持ちいっぱい、いくら指導員お姉さん呼んでも、返事しなかった。「いい勉強

したね、失敗しても、自分の弱点が分かって、良かった。それを常に認識して、頑張れば、次は大丈夫だ」。ずっと落ち込んでいた私は社長の話を聞いて、新しい目標が出来た。「来年は精一杯頑張って、二級を合格して見せる」と強く決心した。

一年後、周りの日本人の励ましと援助の御陰で、仕事しながら、時間をさいて勉強して来た私、悔し思いを抱き、再びこの大学に足を踏み入れた。「落ちついて、慌てるな、大丈夫」社長の声はずっと頭の中に響っていた。深呼吸して、真面目に解答し始めた。一日試験が終わって、やっと気が軽くなった。結果に問われず、初めて真剣に物事に向かった充実感を感じた。二か月後、社長は私が合格した結果を聞いて、「プレッシャーを感じたでしょう、よく頑張った！失敗した事忘れたらだめよ、おめでとう」と喜んでくれた。

最後の一年に、私は一級を目指して勉強し始めた、そして見事に合格した。届いた証明書を見て、三年間人より早く起き遅くまで寝ない、休まず日本語を勉強する苦勞を全部忘れてしまった。でも、試験との思い出は永遠忘れない。もし三級の失敗がなかったら、社長にいろんな日本人と交流するチャンスを頂いなかったら、励ましてくださる方々がいなかったら、私一人の力でいくら頑張っても、一級合格は無理だった。だから、私の一級は皆様あつての結果だ。試験の御陰で、私は新しい自分を探し当てた。帰国しても、知識を仕事に生かして、皆様に感謝したいです。

- ・区 分 技能実習生
- ・国 籍 中国
- ・職 種 婦人子供服製造
- ・受入れ企業 インター治有限公司
- ・受入れ団体 協同組合ポナンザ